専門医合格者コメント

河野　出
（千葉県）

武田　聡史
（香川県）

専門医試験から認定証の郵送まで、これが現実に起こった事かどうか不安であった。口頭試問では提出した症例の欠点を余す事なく指摘され、回答は準備して臨んだものの試験官を納得させられなかった。やや簡単に考えていた私は冷や水を浴びせかけられたようで、すでに専門医、指導医の先生方も同じように厳しい篩にかけられたのだと改めて思い知らされた。

私とインプラントとの出会いは30年前、当時はブレードタイプのインプラントを歯槽頂に形成し槌打で埋入を行っていた。その後開業した際、専門医取得のための研修施設への入所の誘いがあったが機会を逸してしまった。その間手術のプレッシャーに耐え切れなくなったり、メインテナンスを強要する余り患者様が離れていったり、様々な理由で患者様とお別れせざるを得なかったり、良い思いでばかりではなく専門医取得はあきらめかけていた。数年前、友達の誘いで臨床研究会へ入会した事で状況が一変した。情報量の多さ、仲間の励ましや共に学べた事、先輩方の適切な助言でなんとかたどり着くことが出来た。

現在、専門医はゴールではなくスタート地点だと感じている。今後とも一症例ずつ着実に施術して5年後の更新を目指したい。　　河野 出

認定講習会でインプラントの基本を学ばせていただき、毎年の全員発表会で場馴れさせていただいたおかげで、試験に合格することができました。入会から今日に至るまで、ひとりで成し得ることは不可能であり、当会の運営に携わっている先生方、そして一緒に学んでくれた同級生と後輩に深く感謝し、御礼申し上げます。私の場合、運良くボーンアンカード症例があり、地方大会で症例発表を済ませており、学会参加回数を直前にクリアして受験申請できました。また、個別説明会でのアドバイスは非常に有益で、しっかりとフォローいただき対策できました。今回は比較的無難な20症例を揃えられたのが良かったと思います。しかし、持参する資料の用意に取りかかるのが遅く、最後の週は慌てました。筆記試験は時間が足らず、面接の30分もあっという間でした。終わってみればあっけなくも思えますが、余裕はありませんでした。分からないことがたくさんあり、思い通りに出来ないことに意気消沈し、フェードアウト寸前ですが、もうひと踏ん張りして頑張りたいと思います。引き続きご指導、ご鞭撻をお願いいたします。　　武田 聡史

長野市で開業している私は、行動を共にする学友もできず、受験まで実に孤独な5年間でした。情報交換のためも学友の存在は必要だと思います。臨床実地問題は日常臨床の研鑽から答え得ると思います。でも曖昧な解答にならぬよう各種検査の数値は記憶した方が良いですね。一般記述は「指針2016」の目次および付録の「小見出し」がそのまま出題され、設問の範囲が広く解答の自由度は広がります。一方記載内容を記憶していないと全く的外れの解答になります。「指針2016」のコンテンツから設問を想定し、自分なりにまとめ暗記するしかありません。口頭試問の臨床的内容は「CISJ講習会」に出席して研鑽を積んでいれば十分です。しかし解剖学的要素（上顎、下顎の動静脈名や走行、支配神経名と支配領域など）や生化学検査の正常値の暗記は必須です（サイナスアプローチ症例はゼロなのに、なぜか上顎洞について突っ込んで質問されました）。今後は「医療倫理・医療安全・感染対策が重要」とのこと。CISJに入会してこの5年間、ケー

澤口　通洋
（長野県）

甘利　佳之
（東京都）

スプレゼンテーションも含めてこれほどまでに手厚いご指導を頂けるとは思いませんでした。この研究会の合格率の高さは納得です。小倉先生を始め、素晴らしい講師陣に恵まれ有り難い限りでした。本当にありがとうございました。来年の受験生の皆様の合格をお祈り申し上げます。　澤口 通洋

2013年3月私のスケジュールを確認せず、佐久間先生が突然申し込みを行い急遽CISJにお世話になることが決まり、専門医試験まであっという間の5年間。受講開始前、すでに3回他の会議等が重なり、全日程受講可能かが不確定ななか、研修が開始。無事新人会員発表も終了し、晴れてCISJの会員となることができました。そして2015年9月ラグビーW杯　日本代表初戦　対南アフリカ戦という大事な日に岡山で開催された第45回年次学術大会にてケースプレゼンテーションという、組み合わせの悪い日に受験。勿論、直前まで口腔インプラント治療指針を読んでいましたが、試合が開始されるとなると気が気でなく、受験が最終組ということもあり、ほぼホテルの部屋で試合観戦。が、肝心のラストプレーを見ることができずに試験会場へ向かうことに。結果はみなさんご存知の通り大金星。私も金星をあげる、ということではなく無事試験に合格しました。そして2017年、専門医試験の症例相談会で小倉専門委員会委員長にお世話になり、6月の事前審査会では田中会長、中野先生に症例確認をしていただき、資料を全て揃え、いざ書類提出！となった際に、まさかの1年足りず・・・早とちりでした。佐久間先生の『今年受験しろ！』という言葉に騙されました。しかし翌年、事前準備の準備をしていたおかげで、勿論書類は問題なく、提出は早くしておいた方が良いと佐久間専門委員会副委員長の言葉を守り、金曜に月曜日朝着で事務局に届くように郵送。例年通り、受理の連絡はありませんでしたが12月頭に受験票が届き、まさかの受付番号‘18－1号、そう1番でした。甘利なので一桁台はよくありましたが、受験番号1番は初めてのこと。周りからは口頭試問の際に厳しい班に当たるとか色々言われましたが・・・そして年末の直前相談会では様々な先生にお世話になりました。新年が明け、いよいよ受験という直前に知人より、『要約書』なるものがHPにアップされているということになりまたドタバタ。結局、受験勉強は二日前からということに。

今年は試験委員が変わり、初めての試験でもあったため、試験前日に受験生・試験委員各々の認識の違いをなくす目的のため、初の直前説明会がありました。参加できなかった受験生一名を除いて、受験生・試験委員勢揃いの緊張感のある説明会となりました。試験当日、筆記は以前より時間がないとは聞いておりましたが、実際に残しておいた臨床問題に答える時間が足りなく、7割ぎりぎり。そして、休む間も無く口頭試問へ。事前審査会で話題に出ていた通り、ほぼボーンアンカードブリッジ症例で終わり、症例選択は重要だと認識しました。

また、『死んだらどうする？』という想定外口頭試問には驚かされました。とはいえ、無事専門医の認定も受けることができ、受講するキッカケを作ってくださった佐久間先生、日頃より専門委員会でお世話になっている小倉先生、事前審査会でご指導くださった中野先生、日々様々なことでアドバイスをくださる田中会長、ありがとうございました。今後、会の発展の為、所属している専門委員会に力を注いでいきたいと思います。　甘利 佳之